

第1学年松組 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元名 くじらぐも

2 単元の目標

- 【知識及び技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。また、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

3 子どもと単元 単元について

＜身近で自分事として捉えやすい物語教材＞

本教材は、登場人物が自分たちと同じ1年生であり、体育の時間という身近で想像しやすい設定のため、自然に物語の世界に入って共感することができる作品である。「雲に乗ってみたい」「空を飛んでみたい」という子どもたちの願いがそのままストーリーとなっているため、親近感を抱き、自分と重ね合わせながら興味をもって読み進めることができる。そして、物語の世界に入って一気に想像を広げ、最後には元通りの現実世界に戻るため、安心して空想の世界に遊ぶことができる物語である。

また、言葉を基に、想像を楽しんでは声に出して読み、声に出してはまた想像を深めることができるため、想像することの楽しさを味わい、豊かに表現しようとする気持ちが高まることが期待される。

＜動作化や音読を通して想像を膨らませるのに適した教材＞

これまで子どもたちは、「おおきなかぶ」の学習で、場面の様子を読み取り、登場人物の行動や様子を想像しながら楽しく読み進める学習をしてきた。その際に、動作化をして音読したり、会話文を付け足して登場人物になりきりながら音読したりすることを学んでいる。同様に本教材は、子どもたちやくじらぐもになりきって、それぞれの表情や口調、様子などを具体的に想像したり、吹き出しに会話を付け加えて想像を膨らませたりすることから、音読を通して登場人物の行動や様子を理解していく学習に適しているといえる。

学びを支えるために

＜登場人物の行動を具体的に想像するための動作化を取り入れた音読学習＞

本教材は、会話文や動きを表す言葉が多い。感情移入しながら登場人物の思いや行動を読み取ることができるよう、動作化を取り入れながら音読する場を設定する。その際には、教材の面白さを捉えることができるように、文型の繰り返しや言葉のリズムに注目する活動を取り入れる。また、それぞれの場面を言葉や動きと対応させながら考えることができるように、順序が分かりやすく描かれた挿絵を活用する。

ICTの活用＜音読の様子を客観的に振り返るための動画記録＞

自分の音読した様子を客観的に見て、振り返ることができるように、動画に撮って記録する活動を取り入れる。自分が理解したことを表し、言葉の響きやリズムが変わったことを実感できるように、繰り返し記録する場を設ける。また、最初の音読と活動を通じた後の音読の違いを比較し、前よりも上手にできたという達成感や成就感を味わうことができるようにする。

ICTの活用＜スマイルノートによる考えの可視化・共有化＞

子どもたちがくじらぐもに乗った場面では、子どもたちの気持ちを自分事として捉えることができるように、画面上のくじらぐもの上に自分の写真を置いたり、会話文を考えたりする活動を取り入れる。スマイルノートに書いた一人一人の考えを全体で共有することで、多様な考えがあることに気付くことができるようにする。また、様々な考えを出し合うことで自分の考えをさらに深め、みんなで学ぶことの楽しさを味わうことができるようにする。

学ぶ子どもたち

＜読書や音読は好きだが、響きやリズムをあまり意識せずに音読している子ども＞

8月に実施した意識調査では、読書が「とても好き、好き」と答えた子どもは95%、音読が「とても好き、好き」と答えた子どもは89%だった。本学級は、絵本に慣れ親しんでいる子どもが多く、挿絵を手がかりにしながら読書を楽しんでいる。図書ボランティアの方の読み聞かせも楽しみにしており、図書室では好きな本をたくさん借りたり、数名で大型絵本を読んだりする姿も見られる。また、家庭学習として音読を毎日取り入れており、言葉のまとまりを意識して読むことができるようになってきた。声の大きさや口の開け方に気を付けて音読している子どもは89%と多かったが、リズムに気を付けて音読している子どもは50%と学級の半数だった。

＜タブレットPCを使うことに意欲的な子ども＞

様々な学習活動でタブレットPCを使う場面を設定してきたことで、基本的な操作を徐々に覚え、意欲的に使うことができている。スマイルノートに自分の考えを書いたり、それをもとに全体で共有して話し合ったりすることで、一人一人の考えが深まり、学習への意欲の向上が感じられる。

4 指導計画（8時間）

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。 ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	①積極的に読書に親しみ、今までの学習を生かして役割を決めて音読したり、演じたりしようとしている。

 …課題
 …課題と対応したまとめ
 …活動
 …思考

時	子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価(方法)
2 型	<p>今までにいろんな形の雲を見たことがあるよ。 「くじらぐも」ってどんなかんじの雲かな。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「くじらぐも」を読み、初発の感想をまとめる。</p> <p>自分と同じ1年生が出てくるんだね。 くじらぐもに乗ってみたいなあ。 ふしぎなお話だったなあ。</p> <p>「くじらぐも」のお話で、どんなことをしてみたいかな。 問題発見④</p> <p>「はなのみち」では、絵を見てお話を考えたね。「くじらぐも」でもできるかな。 「おおきなかぶ」では、かぶをぬく動きをみんなでやっただよ。 「くじらぐも」では、どんな動きがあるのかな。 「やくそく」では、あおむしがしたことを想像して読んだね。音読の様子をまた動画に撮りたいな。 「おおきなかぶ」の音読劇楽しかった。くじらぐもや子どもたちになりきって、またみんなで音読劇がしたいな。</p> <p>最後にみんなで音読劇がしたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動への意欲や読むことへの必要感が高まるように、最終的には学習発表会の場で学んだことを伝えるという目的を意識させる。 ICTの活用 学習する前と学習した後の音読の違いを比較できるように、音読している姿を動画に撮る活動を取り入れる。 ICTの活用 初発の感想を共有できるように、スマイルノートを活用する。 <p>[知識・技能] ① (行動観察、シート分析)</p>
4 型	<p>音読劇をするには、「くじらぐも」がどんなお話なのか分かっていないといけなね。</p> <p>「くじらぐも」は、どんなお話なのかな。 問題発見④</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">挿絵を話の順番にそって並べ替える。</p> <p>体育の時間のお話だね。 くじらぐもに、みんな乗ったよ。 ジャングルジムに上ってさよならしたね。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">誰が何を話したか短くまとめる。</p> <p>「くじらぐも」は、1年2組の子どもたちが、くじらぐもに乗って空を旅するお話だね。</p> <p>音読劇をするには、もっと詳しくみていかないといけなね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用 登場人物や時、場所の設定を押さえることができるように、デジタル教科書の5枚の挿絵を並び替える活動を取り入れる。 あらすじを短くまとめる際に、語のまとまりに気を付けるとともに、主語と述語を意識するよう助言する。 <p>[思考・判断・表現] ① (行動観察、ノート分析)</p>

<p>4型</p> <p>4</p>	<p>最初は、運動場でくじらぐもと出会う場面だね。どんな話をしているのかな。</p> <p>子どもたちとくじらぐもは、どんな話をしているのかな。 問題発見④</p> <p>子どもたちやくじらぐもの様子や行動を読み取る。</p> <p>子どもたちは、くじらぐもに声をかけている。仲良くしたいのかな。</p> <p>くじらぐもは、子どもたちの真似をしている。学校に来たいのかな。</p> <p>子どもたちやくじらぐもの表情、口調、様子などの行動を想像し、動作化しながら音読する。</p> <p>くじらぐもは、子どもたちのかけ声を真似して、呼びかけに答えようとしているね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用 誰が話している会話文なのかを確認するために、デジタル教科書の機能を用い、子どもの言葉には赤線を、くじらぐもの言葉には青線を引く場を設定する。 ICTの活用 声の大きさや速さを意識して音読できるように、音読する際の工夫点をデジタル教科書に書き込む活動をする。 <p>[思考・判断・表現] ② (行動観察、シート分析)</p>
<p>4型</p> <p>5 本時</p>	<p>子どもたちもくじらぐもも同じ会話文を何回か繰り返し返しているね。全部同じ読み方でいいのかな。</p> <p>子どもたちとくじらぐもが話しているところは、どのように読んだらいいのかな。 問題発見③</p> <p>子どもたちやくじらぐもの表情、口調、様子などの行動を想像し、動作化しながら音読する。</p> <p>「天までとどけ、一、二、三。」は3回あるけど、だんだん高く飛べるように、声もだんだん大きくするといね。</p> <p>3回目の「一、二、三」は思い切り力を入れるから、一番大きな声でゆっくり読むといね。</p> <p>くじらぐもが「もったかく。もったかく。」と言ったら、子どもたちは本当に前より高く飛べたから、2回目の「もったかく。もったかく。」の方を大きな声で読んだ方がいい。</p> <p>それぞれの工夫を発表し合い、子どもたちとくじらぐもの行動をまとめる。</p> <p>みんなが想像した子どもたちとくじらぐもの様子が伝わるような読み方にするといいんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛ぶ高さがだんだん高くなることを視覚的に捉えることができるように、会話文とジャンプの高さを関連付けて板書する。 ICTの活用 音読の様子を振り返り、工夫して読んだところを見返すことができるように、3人一組のグループで動画を撮る場を設定する。 ICTの活用 お互いの振り返りを共有し、自分の考えを深めたり友達のよさに気付いたりするために、スマイルノートを活用する。 <p>[思考・判断・表現] ② (行動観察、シート分析)</p>
<p>4型</p> <p>6</p>	<p>やっとかくじらぐもに飛び乗ることができたね。一緒に旅をしている時は、どんなお話をしたのかな。</p> <p>くじらぐもに乗って、くじらぐもと子どもたちは、どんな話をしたのかな。 問題発見④</p> <p>想像して吹き出しに書く。</p> <p>くじらぐもさん、海ってきれいだね。空の上も気持ちいいね。楽しいなあ。向こうの方に行ってみたいなあ。</p> <p>空って気持ちがいいでしょ。みんなが乗ってくれたから、がんばって泳ぐぞ。楽しいなあ。</p> <p>会話を付け加えながら音読する。</p> <p>くじらぐもも子どもたちも、やっと一緒に遊べるようになったんだから、とても楽しいねって話しているよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用 場面の様子を想像し、考えた会話文を共有できるように、スマイルノートを活用する。 「くじらぐも」の話の中に入り、自分事として考えることができるように、挿絵の中に自分の似顔絵を貼り、想像した会話文を考える場を設定する。 <p>[思考・判断・表現] ② (行動観察、シート分析)</p>

「おおきなかぶ」みたいに、最初から最後まで通して音読劇をしてみたいね。

工夫して音読しよう。

グループに分かれて役割分担をする。

くじらぐもになりきってやってみたいな。

だんだん大きな声で読んでみたいな。

この前考えた会話を付け足して言ってみよう。

単元の学習の振り返りを行う。

前読んだ時よりも上手に読めたよ。

声の大きさや速さに気を付けて読めたよ。

みんなで手をつないで音読したのが楽しかったな。

今回の学習で学んだことは、他の学習で音読する時にも使っていけそうだね。

- 自分たちが想像したことや、音読する際に工夫したことを互いに伝え合うことができるように、よかったところや感想を発表する場を設ける。
- 単元の学習を振り返る場面では、これまでの自分の取組を振り返るだけでなく、場面の様子を思い浮かべて音読する際のポイントを今後の学習へも生かすことができるように、教科書P15の「たいせつ」の内容を押さえる。
- ICTの活用** これまでの音読よりも工夫してできたという達成感や成就感を味わうことができるように、最初に録画した音読の様子と比較する場を設ける。

[主体的に学習に取り組む態度]①
(行動観察、ノート分析)

5 本時の実際 (本時 5/8) **4型**

(1) ねらい

声に出して読んだり、動作化したりすることを通して、くじらぐもに乗るまでの子どもたちとくじらぐもの表情、口調、様子などの行動を具体的に想像することができる。

(2) 展開

子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価方法等
<p>1年2組の子どもたちは、くじらぐもに飛び乗ろうと張り切っていたね。今日はいよいよ飛び乗る場面だ。</p> <p>全員で、本時の場面を音読する。</p> <p>子どもたちもくじらぐもも同じ会話文を何回か繰り返しているね。全部同じ読み方でいいのかな。</p> <p>子どもたちとくじらぐもが話しているところは、どのように読んだらよいか。 問題発見③</p> <p>子どもたちとくじらぐもの行動や様子を確認する。</p> <p>3回ジャンプしているね。なかなか飛べなかったんだね。</p> <p>3回目は、くじらぐもに乗る前の最後のジャンプだね。</p> <p>くじらぐもは、「もっとたかく。もっとたかく」と二回言っているよ。</p> <p>子どもたちやくじらぐもの表情、口調、様子などの行動を想像し、動作化しながら音読する。</p> <p>「天までどけ、一、二、三。」は3回あるけど、だんだん高く飛べるようになってきているよ。</p> <p>30センチと50センチってどれくらいかな。3回目は、それより高く飛んだんだよね。ちょっと飛んでみよう。</p> <p>くじらぐもが「もっとたかく。もっとたかく。」と言ったら子どもたちは本当に前より高く飛べたね。</p> <p>2回目の「もっとたかく。もっとたかく。」は1回目よりも大きな声で読んだ方がいいね。</p> <p>声もだんだん大きくなるといいね。</p> <p>3回目は、すごく力を入れて一番大きな声でゆっくり読むといいかな。</p> <p>それぞれの工夫を発表し合い、子どもたちとくじらぐもの行動をまとめる。</p> <p>みんなが想像した子どもたちとくじらぐもの様子が、伝わるような読み方にするといいんだね。</p> <p>学習の振り返りを行う。</p> <p>ジャンプの高さが違うから、だんだん大きな声を出してゆっくり読むといいんだね。</p> <p>〇〇さんの「一、二、三。」の読み方が、とても力が入っている感じがして、真似をしてみた。</p> <p>今日学んだことを生かして、またみんな德音読劇がしたいな。</p> <p>次は、くじらぐもに乗って旅をする場面の読み方を考えたいな。</p>	<p>教師の支援と評価方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容とのつながりを意識したり、本時の学習の方向性を確認したりする場を設定する。 飛ぶ高さがだんだんと高くなることを視覚的に捉えることができるように、会話文とジャンプの高さを関連付けて板書する。 これまで子どもたちの言葉を繰り返していただけたくじらぐもが、自分の言葉で主体的に話している姿に気付くことができるように、「くじらも」と「くじらが」の違いに着目する場を設定する。 声の大きさや速さを意識して音読できるように、音読する際の工夫点をシートに書き込む活動をする。 ICTの活用音読の様子を振り返り、工夫して読んだところを見返すことができるように、3人一組のグループで動画を撮る場を設定する。 動作化がなかなか上手くできない子どもには、30cm、50cmといったジャンプの高さを想像しやすいように、実際に飛んでみてその違いを比較するように助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[思考・判断・表現] 行動観察・シート分析 子どもたちとくじらぐもの表情、口調、様子などの行動を具体的に想像し、自分なりの考えをもっているかの確認。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用自分の学習への取組を価値付けることができるように、振り返りの観点を示す。また、お互いの振り返りを共有し、自分の考えを深めたり友達によさに気付いたりするために、スマイルノートを活用する。